

第47回 ゴミパイプライン臨時協議会

日時:令和7年3月15日(土)

14時00分~15時00分

場所:芦屋市環境処理センター会議室

1. ファシリテーター導入について(合意内容の確認)【時間設定:40分】

ファシリテーターの専門的支援を活用しながら、芦屋市と利用者の会が協力して新しいごみ収集システムの合意形成と実現を目指す

- **【資料1】** ファシリテーター導入に向けた基本資料(案)
本資料の合意決議を求める
- **【資料2】** 適任のファシリテーターの選定について
本資料は、合意決議に付随する利用者の会から市への要望として扱う

2. 同上合意決議【時間設定:10分】

3. その他【時間設定:10分】

ファシリテーター導入に向けた基本資料(案)

令和 7 年 3 月 15 日

パイプラインワーキンググループ

— 目次 —

1. はじめに	3P
2. ファシリテーター導入の目的と役割	
2.1 導入の目的	
2.2 ファシリテーターに期待する役割	
3. 背景と協働体制の歩み	4P
3.1 利用者の会の結成と市への働きかけ	
3.2 ゴミパイプライン協議会の設立	
3.3 ワーキング・グループとTMESの参加	
3.4 多角的アプローチによる合意形成	
3.5 年次報告書・引継書の作成による情報共有	
4. 現行パイプラインの劣化状況と問題点	5P
4.1 老朽化と補修費の増加	
4.2 高額な維持管理コスト	
4.3 早急な代替案合意形成の必要性	
5. 代替案の検討状況	6P
5.1 主な候補と概要	
5.2 リサイクルカート導入に向けた合意点と課題	
6. 今後の検討課題	7P
6.1 費用負担の割合	
6.2 具体的な今後の検討課題	
① 新システムの選定・デザイン・運用に関わる課題	
② 設置場所・インフラ整備に関わる課題	
③ 収集方式・スケジュールに関わる課題	
④ 高層階・建物側の課題	
⑤ 新技術・環境対応への展望	
7. ファシリテーターに担っていただきたいこと	8P
8. ファシリテーターとワーキング・グループが目指すゴール	8P
9. 今後のスケジュール	10P
10. おわりに	11P

1. はじめに

芦屋市と「ゴミ収集パイプライン利用者の会」は、老朽化したパイプライン施設の代替案を検討するため、長年にわたり協議を進めてきました。しかし、過去3年間において議論が停滞し、合意形成が円滑に進まない状況が続いています。

本資料は、芦屋市と「ゴミ収集パイプライン利用者の会」が進める新ゴミ収集システム導入プロジェクトにおいて、中立的な立場で議論を整理し、効率的かつ建設的に合意を導くためのものです。

特に、ファシリテーターの方に向けて、現状の課題や背景、代替案の検討状況、今後のスケジュールと目標などを提供し、円滑な議論と合意形成を支援していただきたいと考えています。

2. ファシリテーター導入の目的と役割

2.1 導入の目的

- **議論の停滞解消:**意見の対立やコミュニケーションの行き違いを調整し、前向きな話し合いに転換する。
- **合意形成の促進:**複雑な利害関係や多様な要望を整理し、双方が納得できる枠組みを作る。
- **新ゴミ収集システムへの移行:**パイプライン廃止後を見据え、住民・自治体・事業者が協力して進められる具体案を早期に確定する。

2.2 ファシリテーターに期待する役割

ファシリテーターの方には、以下の役割を担っていただきたいと考えております。

- **議論の活性化と進行管理:**関係者の意見や懸念を丁寧に聞き取り、議論を活性化させるとともに、議題や時間配分を明確化し、効率的に会議を運営していただきます。
- **意見の可視化と調整:**各関係者の懸念や提案を整理して共有し、共通点や優先度を引き出していただきます。
- **合意形成の支援:**対立する論点を整理し、妥協点や代替策を提示しながら合意へと導いていただきます。
- **中立性の確保:**特定の立場に偏ることなく、公平な視点で議論を進めていただきます。

3. 背景と協働体制の歩み

3.1 利用者の会の結成と市への働きかけ(2015年～)

- パイプライン廃止問題に直面し、2015年11月に「ゴミ収集パイプライン利用者の会」が結成されました。
- 市議候補へのアンケートや署名活動を通じ、市民の要望を行政に届ける基盤を整えました。

3.2 ゴミパイプライン協議会の設立(2016年～)

- 市長と利用者の会との面談を機に、パイプライン問題解決へ向けた定期的な協議の場が設けられました。
- 施設の維持費用や老朽化への対応策を話し合う枠組みが確立されました。



3.3 ワーキング・グループとTMESの参加(2017年～2021年)

- 技術的検討を行うワーキング・グループが発足し、毎月の協議を継続しました。
- 2018年11月、「ゴミ収集パイプライン利用者の会」のサポートのもと、「芦屋市廃棄物運搬用パイプライン施設の運用期間を定める条例」が制定され、同パイプラインの廃止時期が確定しました。
- 2021年4月からは包括的委託契約(TMES)が開始され、ワーキング・グループや協議会に参加し、ごみ収集やマナー啓発、代替案の検討などにTMESのノウハウが活用されました。

3.4 多角的アプローチによる合意形成(2018年～現在)

- 「トラブルZERO」活動やアンケート調査、代替システム(SmaGoやリサイクルカート)の検討が進められています。
- マナー違反投棄の防止や食品ロス、CO₂削減などの広範なテーマを取り込みながら、廃止後を見据えた方策を模索しています。

3.5 年次報告書・引継書の作成による情報共有

- 年次報告書の全戸配布や引継書の整備を通じて、協議会やワーキング・グループの成果や検討事項を市民全体に可視化し、情報共有を進めております。
- 継続的な合意形成には、行政・市民・民間事業者が共通の情報基盤を持つことが欠かせないとの認識のもと、利用者の会が主体的に情報発信を行っております。

4. 現行パイプラインの劣化状況と問題点

芦屋市芦屋浜及び南芦屋浜地域の各一部では、長年にわたりごみ収集パイプラインシステムを利用してきましたが、施設の老朽化や維持費用の増大、災害時対応の脆弱性など、さまざまな課題が生じております。

4.1 老朽化と補修費の増加

- ・ 穴あきや亀裂が増加し、雨水の侵入による運転停止が発生しております。
- ・ 継続的な補修工事に加え、将来的な更新費用が膨大になることが懸念されます。
- ・ 現在の経年劣化の状況を考えると、使用期限まで補修によって維持できるか、不安な面がございます。



4.2 高額な維持管理コスト

- ・ 運用費(工事・電気代・人件費など)が年間 2 億円を超えており、負担が増大しております。
- ・ 使用期限(芦屋浜:2039 年、南芦屋浜:2051 年)までのコスト増が懸念されます。

4.3 早急な代替案合意形成の必要性

これらの課題を踏まえ、条例で定められたスケジュールよりも早い段階で、新しいごみ収集システム(代替案)について合意形成を進める必要があります。その理由は以下のとおりです。

1. 自然災害への対応強化

気候変動に伴い、自然災害の頻度や規模が増加しているため、ごみ収集システムにも災害時に柔軟に対応できる設計が求められています。

2. インフラの脆弱性への対応

パイプライン施設の運用停止リスクを軽減するため、迅速に代替案を作成し、災害や老朽化に対応できる柔軟なシステム設計が必要です。

3. 高齢化による運営体制への影響

ワーキンググループ参加者の高齢化が進み、活動の継続性が懸念されております。若い世代の参加を促進するため、新たな運営体制の構築が求められます。さらに、気候変動に伴う豪雨や南海トラフ地震の影響など、自然災害の可能性を考慮すると、抜本的な解決策として、早急に新たなごみ収集システムの導入が不可欠です。

5. 代替案の検討状況

5.1 主な候補と概要

- テクノキューム / ごみ(ダスト)ドラム / 施錠付きごみ集積場 / リサイクルカート(反転コンテナ) / SmaGo(ソーラー圧縮式ごみ箱) / 地下ピット方式
- 各案について、導入費・運用費・衛生面・利便性・環境負荷などを比較し、最適な組み合わせを検討しております。

5.2 リサイクルカート導入に向けた合意点と課題

合意済み事項

- 有力代替案の候補として、700Lクラスのポリエチレン製カートを標準仕様とし、におい対策として蓋付きのものを採用することが決定しております。

課題

- 代替案設置後のごみステーション費用負担の管理の分担について
- 設置場所の確保(狭隘路や高層住宅への対応)について
- 24時間いつでもごみを出せる方式と、時間指定による収集方式のどちらが適切かについて等

6. 今後の検討課題

6.1 費用負担の割合

- 代替案設置後の管理費用について、市がどこまで公的費用を負担するのか、また利用者側の負担をどのようにするのかを検討していきます。

6.2 具体的な今後の検討課題

① 新システムの選定・デザイン・運用に関わる課題

- 新システム(代替案)を住宅形態に応じてどのように選定するか。
- 代替システムのデザイン(自治体独自の設計と市販品導入のメリット・デメリット、費用比較)。
- 代替システムの使用期限(製品や設備の想定耐用年数、補修や更新頻度の見込み)。
- 代替システムの利便性(操作性や安全性、固定方法など、設置後の使用者目線での使い勝手)。
- 代替システムの安全性(高齢者や子どもの事故防止対策、緊急時(台風など)の取り扱い)。
- 建物や街並みに調和する色や形の検討。

② 設置場所・インフラ整備に関わる課題

- 設置場所の決定(道路法・都市公園法・建築基準法などの制約を考慮)。
- 代替システムの住居への接近問題。
- 代替システムとごみ収集地点の距離制限。
- 現場の物理的条件(勾配・強風対策・アンカー固定など)への対応。
- におい・深夜の騒音・ごみの散乱防止策の検討。

③ 収集方式・スケジュールに関わる課題

- 収集回数・曜日・時間(住民の生活パターンや交通状況に配慮した収集頻度・時間帯の設定)。
- 収集ルートの確認(車両通行(大型・中型車両のサイズ、旋回スペース)や安全対策)。
- 騒音問題(夜間・早朝の収集による騒音が住環境に与える影響)。
- 代替収集車のサイズや仕様の検討。

④ 新技術・環境対応への展望

- 非接触型のごみ収集の導入(衛生面や作業員の負担軽減を目的とした、スマートロックやセンサー技術を活用した非接触型回収システムの実現可能性)。
- 電気自動車(EV)収集車の導入(導入コスト、インフラ整備(充電設備)、CO₂削減効果など、環境負荷低減への影響)。

7. ファシリテーターに担っていただきたいこと

1. 優先度の高い論点の明確化、意見対立の整理と解決策の導出

- ・ 今後の検討課題をそれぞれ精査し、対立点を俯瞰的に整理したうえで、論点ごとに解決策をまとめていただきます。
- ・ 必要に応じて、妥協点や代替案を提示し、合意形成を促進していただきます。

2. 実証実験の目的と評価基準の設定

- ・ 実証実験のエリアや期間を決定し、データ収集項目(コスト・におい・満足度など)を整理していただきます。
- ・ 収集した結果を分析し、次のステップへ適切に反映できるよう調整を行っていただきます。

3. 合意内容の文書化と再燃防止

- ・ 過去の合意事項を会議で確認しながら、新たに決定した内容を逐次文書化していただきます。
- ・ 議論が過去に戻ることはないよう、合意事項を明確にし、再燃を防ぐ仕組みを提案していただきます。

8. ファシリテーターとワーキング・グループが目指すゴール

ファシリテーターとワーキング・グループが目指す最終ゴールは、1年後(2026年)に計画している実証実験を成功させるために、住宅形態ごとに適したごみ収集方法を3つの代替案として確定し、円滑な合意形成を進めることです。

8.1 具体的な目標

1. 住宅形態ごとの収集方法の確定

- ・ 戸建て住宅・タウンハウス・中層住宅・高層住宅ごとに3つの代替案を選定する。
- ・ 各案の比較検討(費用・利便性・環境負荷・災害対応など)を実施する。

2. 住民・自治体・事業者間の合意形成

- ・ すべての関係者が納得できる透明性の高い意思決定を行う。
- ・ 住民説明会や意見交換を通じて、多様な意見を反映する。

3. 実証実験の計画策定と準備

- ・ 住宅形態ごとの適用可能なごみ収集方法を確定し、実証実験の評価基準を策定する。
- ・ 実証実験に向けた設備設置や住民説明会の準備を進める。

4. 実証実験の実施と評価

- ・ 住宅形態ごとに選定した 3 案の試験導入を行い、住民の利便性・コスト・環境影響・災害対応などのデータを収集する。
- ・ 実証結果をもとに最適な代替案を確定し、2027 年末までに最終的な収集方法を決定する。

8.2 ワーキング・グループの役割

- ・ 代替案の検討と比較を行い、ファシリテーターと協力して合意形成を進める。
- ・ 住民や関係機関と連携し、意見を集約しながら、実証実験に向けた準備を支援する。
- ・ 実証実験の実施後、評価結果を分析し、最終的な収集システムの決定に貢献する。

これらの目標を達成することで、持続可能な新しいごみ収集システムの実現に向けた確実な一歩を踏み出すことができます。

9. 今後のスケジュール

1)2年間の全体スケジュール(2025～2027年)

この2年間のスケジュールは、ファシリテーターの専門的支援を活用しながら、芦屋市と利用者の会が協力して新しいごみ収集システムの合意形成と実現を目指すものである。

ステップ	期間	活動名
1	2025年1月～3月	●ファシリテーター導入準備 導入目的を明確化し、必要なスキルや役割を定義します。芦屋市と利用者の会が連携して基盤を整備する重要なステップとなる。
2	2025年4月～6月	●事前準備とファシリテーター選定 公平かつ効果的な選定プロセスを実現するため、入札要件を整理し、最適な候補者を選出する。
3	2025年7月～8月	●キックオフ(活動開始) ファシリテーターと関係者全員が初めて顔を合わせ、全体計画を共有する。この段階でプロジェクトが本格始動する。
4	2025年9月～2025年12月	●代替施設案作成と月次議論の進行 ファシリテーターの主導で、月次会議を通じて代替施設案を具体化する。議論を深めることで、建設的な解決策を導き出す。
5	2026年1月～3月	●最終代替施設案の合意 月次議論での成果をもとに、最終案を調整する。意見を集約し、関係者間の合意形成を進める。
6	2026年4月～5月	●実証実験準備(環境整備と住民調整) 実証実験に向けた準備期間である。対象エリアを選定し、住民との調整や必要な設備の整備を行う。
7	2026年6月～11月	●実証実験の実施とデータ収集 実際の運用を試行する期間である。実験を通じて得られるデータを分析し、課題を明確化する。
8	2026年12月	●実証結果の評価と次段階への準備 実験結果をもとに評価を行い、改善案を検討する。代替施設計画の公式承認に向けて改善案を反映する。次年度に向けた具体的なアクションプランを策定する。
9	2027年1月～3月	●代替施設計画の公式承認 実証結果を反映した代替施設計画を、公式に承認する。この段階で新しいごみ収集システムの導入計画が確定する。

10. おわりに

ファシリテーターの方には、中立的かつ専門的な視点から、「芦屋市と利用者の会」がこれまで積み上げてきた議論を整理し、最適な合意形成へ導いていただきたいと考えております。

本資料に記載している内容は、現時点の状況を基にしたものであり、今後の追加情報や試験導入の結果によって見直しが生じる可能性がございます。

私たちは、ファシリテーターの方と協働しながら、透明性の高いプロセスを進め、すべての関係者が納得できる新たなごみ収集システムの実現を目指してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

適任のファシリテーターの選定について

パイプライン廃止に伴う新ごみ収集システムの検討にあたり、適切な合意形成を行うため、以下の要件を満たすファシリテーターの選定をお願いしたいと考えております。

特に、過去の合意形成の実績、ごみ処理に関する知見、公平な議論を進めるスキルを備えた候補者を検討いただきたく、以下の要件に基づいた選定プロセスをご提案いたします。

ファシリテーター選定の要件

(1) 実績・経験

- **合意形成の実績**: 多様な利害関係者が関わる場において、円滑な議論を進めた経験があること。(例: 都市計画、住民協議、大規模インフラ案件など)
- **自治体との協働経験**: 自治体主導のプロジェクトに携わった経験があること。
- **住民との対話実績**: 市民参加型プロジェクトや地域協議会などで、住民との対話を円滑に進めた実績があること。

(2) ごみ処理・環境分野の知見

- **ごみ収集・廃棄物処理の基礎知識**: 現行のごみ収集方法や関連法規(廃棄物処理法、自治体のごみ収集条例など)に関する知識を有していること。
- **持続可能なごみ処理システムの知見**: 環境負荷を低減する技術や、先進的なごみ処理システムの事例を理解していること。

(3) ファシリテーション能力

- **議論の整理能力**: 関係者の意見を的確に整理し、論点を明確にするスキルがあること。
- **中立性の確保**: 特定の利害に偏らず、公平な立場で議論を進められること。
- **合意形成の推進力**: 対立する意見がある場合に、妥協点や代替案を示しながら合意へ導く能力があること。

(4) コミュニケーション能力

- **明瞭な説明力**: 専門用語を分かりやすく説明し、多様な立場の人が理解しやすいように調整できること。
- **聞き取り力**: 住民や自治体関係者の意見を適切に把握し、必要な情報を引き出すことができること。

以上